

平成 31 年度 須坂東高校入学式式辞

短い波長での三寒四温を繰り返しながら、花の便りとともに待ちに待った穏やかな春がすぐそこまでやってきました。本日の佳き日に、同窓会長 浅井様始め、多数のご来賓の皆さまのご臨席を賜り、ここに須坂東高等学校平成 31 年度入学式を挙行できますことを厚く御礼申し上げます。

只今入学を許可いたしました 194 名の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんの入学を心より歓迎いたします。保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠にありがとうございます。中学から高校へと、また一回り成長されたお子様の姿に感慨ひとしおのこととお喜び申し上げます。

義務教育を修了し、自分の意志で初めて進むべき道を選択した皆さんですが、本校では高校 3 年間の時間を皆さんが有意義に過ごせますよう、自立の道のりをしっかり支援できるような教育活動に取り組んでまいりたいと考えておりますので保護者の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、須坂東高校は大正 7 年創立の長野県町立須坂実科高等女学校を前身とし、昨年度創立 100 年を迎えた伝統ある学校です。須坂市の文教地区の一角に位置し、「貴婦人の森」と呼ばれる緑豊かな落ち着いた環境が生徒たちを見守り、活気あふれる活動の歴史を刻んできた学校であります。卒業生の皆さまはこの学校で学んだ時間を誇りに、須坂地区はじめ県内外でご活躍されており、後輩たちの活動にもご理解と愛情をもってご支援いただいております。

いよいよ平成の時代に終わりを告げ、新入生の皆さんを含めた若い世代の活躍が大いに期待される新しい時代の幕開けとなりました。大学入試改革に伴い、高校生の学びのスタイルが大きく変わろうとしている今、新入生の皆さんに求められる力は、自分の力で未来を切り開く力です。AI の知能発達には叶わぬとも、人間にしかできない心をもっての行動が求められる時代です。そのために必要なことは、自ら主体的に動き、自ら考え行動し、自らの言葉で発信する力です。中学生と高校生の大きな違いは自由という名の責任が課せられることではありますが、自分で挑まなければ何も得られず、挑まなかったことも自分の責任として重く肩に降りかかるという、大人としての生き方を学んでいきます。主体的に動く、主体的に学ぶ ということ、それは、常に世の中で起きていることに対して疑問を持ち、その中に自分の問いを見つけ、その問いと向き合い、向き合った問いを次につないでいく。このサイクル大切に、自分が向き合った問いを発信する力までを、ぜひ本校で、肌で体験してほしいと願います。そしてその問いと向き合った結果が、皆さんにとってよりよい未来の夢の実現のための進路選択であるよう応援したいと思います。

ベンガルを代表する詩人・思想家の ラビントラナート・タゴールの詩に、「百年後」という詩があります。ある詩人が、100 年後に自分の詩を読むであろう、その読み手に対し、温かな希望と願いを込めて作られた詩です。この詩に作曲家の信長貴富氏が曲をつけ素晴らしい合唱曲になっていますが、100 年後の未来の君に言葉を投げかけたタゴールのように、信長氏も最終小節のピアノの残響音に「永遠の魂が宿るように」と願いを込めた曲です。

「今から 100 年後に 私の詩の葉を ころろを込めて読んでくれる人 君は誰か。今日の春の喜

びのあいさつを 私はその人に贈る 私の春の詩が しばし 君の春の日に こだましますように。君の心の鼓動の中に 若き蜂たちのうねりのなかに そして木の葉のざわめきの中にも こだましますように。今から 100 年後に・・・」

創立 100 年を迎えた本校の、100 年前の生徒の皆さんから脈々と受け継がれた学校に対する思いも、まさにこの詩のようであったのでは と思いめぐらせ、新しい時代の幕開けに、その思いに応えるべく、過去と現在と未来がこだまする空間を、ぜひこの須坂東高校で新入生の皆さんがさまざまな音色で響かせてくれることを期待します。

本日、スタート地点に立った新入生の皆さんが、力強く一歩を踏み出せることを切に願って、入学式の式辞といたします。